

授業改善書

| | |
|-----|---------------|
| 科目名 | 保育内容の研究(言葉) I |
| 担当者 | 赤津 純子 |

授業の概要

保育内容の領域「言葉」について、幼稚園教育要領、保育所保育指針の内容、精神を踏まえた上で、言葉の発達心理学的な解説を行い、さらに保育実践のあり方に関して講義した。

具体的には、言葉の獲得過程を概観し、その過程の発達を促すためには、どのように援助していけばよいかということについて考えた。

できるだけ新しい知見を取り入れながら、言葉を取り巻く問題を自分たちのこととして捉えられるように授業を進めていった。

授業の問題点

授業はテキストを使用し、さらに配布資料を用意したり、映像教材を用いたりして、学生達が言葉の発達やそれを促す人的環境、児童文化財について、具体的なイメージが持てるように工夫した。

はじめのころは、ただ座っているだけで、講義を理解しようとする姿勢の見られない学生もいたので、授業に集中し、能動的に参加するように、ただ板書を写すのではなく、メモを取り、自分でノートをまとめることを絶えず促し、また質疑応答とまではいかなくとも、教員から問いかけ、学生に答えさせる場面を多く取り入れるようにした。

すぐにその効果は出て、私語もなく、ほとんどの学生達が、積極的に真剣に授業に取り組むようになった。またそうなると、内容についても面白いと感じ、興味を持って臨んでいる様子も見られるようになった。

かなりゆっくりな速度で1つの事柄についても多方面から懇切に説明しているのだが、それでもメモを取ることが苦手な学生がいる。一部の学生ではあるがこのような学生を救う手立てを考える必要がある。

授業改善の課題・方策

メモを取ることが苦手であるという学生は、話された内容の要点が即座に掴めないのかもしれない。もしそうであるならば、まずは話された内容を全て書き出してみる、その後に見返して改めてノートを作るという二段構えにして対応してくればよいと思う。このような学生本人の努力も必要である。

教員側としては、さらにゆっくりと説明し、メモを取る時間を今まで以上に確保したり、取り方がわからない学生には、机間巡視して出来る範囲でその場で具体的に教えることで対応したい。

その他